

(18) 那珂川流域における水と人との係わり

RELATIONSHIP BETWEEN WATER AND PEOPLE
AROUND THE NAKAGAWA RIVER

松浦茂樹*・島谷幸宏*

Shigeki Matsuura*・Yukihiko Shimatani*

1. まえがき

1973年のオイルショック以降経済成長は鈍化し、いわゆる安定成長の時代へと移行した。社会の雰囲気もだいに落ち着いてきて、人々は量的なものから、うるおい・豊かさ・楽しさといった質的なものに、その価値感を変化させてきている。そのような時代背景の中で自然空間である河川は、国土における身近なアメニティー資源として、人々にしだいに注目されるようになってきた。各地で「水」という言葉を織込んだ都市政策のキャッチフレーズが多く見られるのはこのあらわれであろう。この状況は、河川が我々の生活にとって身近なものであることに最も起因しよう。その身近さは、流域に生活する人々が歴史的に培ってきた河川との強い係わりによるものである。

筆者らは、河川環境向上に関する一連の研究を実施中であるが、本論文は、その一部を構成する基礎的研究として実施したものである。

2. 研究の目的と方法

本研究の目的は、環境面からの親水活動を中心として河川と人々の係わりを歴史的に明らかにしようとしたものである。「河川と人々の係わり方」を歴史的に捉えることによって、今日の係わり方が評価されよう。また流域に生活してきた個々人の目、および時代の目から河川を見直すことができるであろう。なお本論文では、川あるいは水に係わりのある全ての人間活動を、親水活動と捉えている。しかし環境面での水との係わりを中心に置き治水・利水事業に関しては付属的に取り扱っている。都市化していく国土にとって、洪水への対応あるいは都市用水、農業用水等の取水活動以外の河川とのふれあいがいよいよ重要になっていくからである。

対象とする河川は、栃木県那須岳を源流とし、茨城県の県庁所在地・水戸市を貫流し太平洋に注ぐ那珂川である。那珂川は、流域面積は270km²幹線流路延長150kmの1級河川で水質は清冽な部類に入り、サケの遡上する河川として有名である。那珂川を対象河川とした理由は、関東周辺の河川では自然が比較的良く保持され、水戸市を除いて流域の都市化がそれ程進んでおらず、歴史的な河川と人々との係わりが現在も比較的良く保持されていると予想したためである。対象となる市町村数は茨城県で9市町村、栃木県で10市町村である。

親水活動の事例を収集する方法として次の4つの方法による。

- 1) 文献(主として郷土誌、民俗調査報告書)による事例の収集
- 2) 市町村に付する電話ヒアリング
- 3) 1), 2)の結果に基づいた現地聞き込み調査および現地観察
- 4) 夏期における河川内での親水活動の現地調査

3. 活動種別の説明

河川に係わる活動をその目的によって以下の7つに分類する。この分類は、那珂川流域のみならず全国的に親水活動の事例を収集して分類したものである。分類された各活動は、時代の変遷にともなって活動目的も変遷しているものもある。たとえば燈籠流し、流しびなは先祖をまつる儀式として発達したが、現在はその意味とともに余暇としての意義も大きくなっている。本報では出発点での目的に従って分類することを基本とする。なお各活動ごとに主に何の調査によって収集し得たかも示してある。

信仰活動 川のきよめ感や無常感と結びついて様々な形の信仰がある。ここでは川に関
(文献・現地聞き込み) 係のある、信仰に伴う活動を信仰活動と定義する。例：水神信仰、天王信

仰、弁財天信仰、雨乞い、信仰に伴う祭、カッパ信仰、流しびな、燈籠など

生活活動 個人または家族などのレベルで行うもの、日常生活における川と係わりのある活動 例
(現地観察)：水汲み、農業用水の個人での取水、野菜洗い、洗濯、流雪溝での雪流し、魚とりなど

生業活動 生活の糧を得るために川と関係した活動、個人あるいは個々の企業のレベル
(文献・現地聞き込み) で行うもの 例：農業、漁業、林業、工業、鉱業、運輸業、観光業

社会活動 川と関係した活動のうち集団を単位とした活動で、生活の糧を得るための活
(文献・現地聞き込み) 動ではないもの 例：利水活動、軍事活動、住民活動、地域行事

創作活動 川と関係のある文学・美術・音楽などの創作活動 例：文学、美術、音楽、映画、写真、昔
(文献) 話、民話の題材として、楽器演奏、歌舞伎、舟舞台、曲水の宴の場として

教育活動 川を題材としたり、媒介とした教育活動

(電話ヒアリング・現地聞き込み)

レクリエーション活動 川で行う遊び・スポーツ

(文献・現地聞き込み・電話ヒアリング・親水活動現地調査)

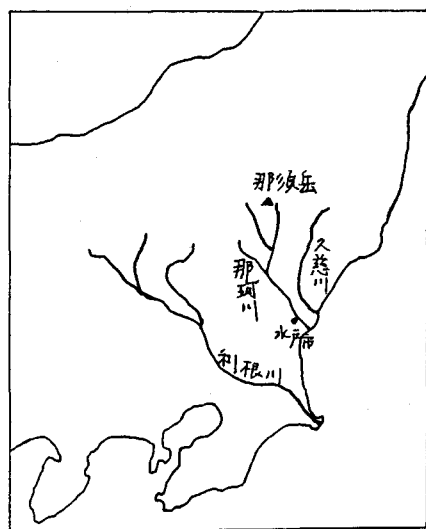


図-1 那珂川位置図

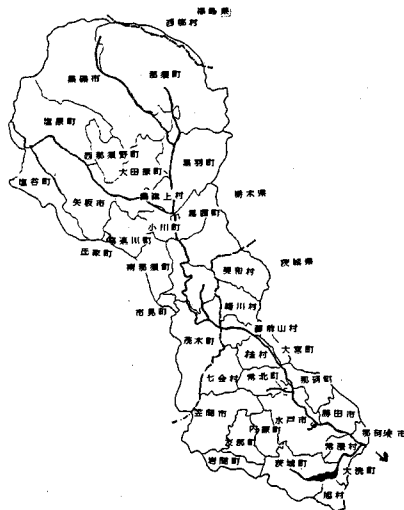


図-2 那珂川流域市町村図

4. 活動種類別の那珂川流域の親水活動事例

4.1 信仰活動

那珂川流域にも、多くの水に関連する信仰がある。栃木県の湯津上村と茨城県の常北町では水神、水神社を文献から見出すことは出来なかった。表-1に示すように他の市町村では、水に関する神社が見られる。

全国的に見れば水に関する神様が最も多く信仰されているのは、伊邪那美尊の尿から化身した弥都波能売神であらう。弥都波能売神は用水路の神様であり、那珂川流域の小さな水神の多くは、この神を祀っている。この流域での水神様は、ほとんど利水の神様といえる。黒羽町鰐掛の水神は、那須扇状地の扇端から湧出する小河川の小源にまつられ、現在でも毎年4月25日にお祭りをする。全国的にみても、取水地点や湧水地点に水神を祀る例は多い。

カビタリ、カワッペイリと呼ばれる水神に関する祭りは全流域的に見られる。この祭りは水難除けのための祭りで、川に餅を流す場合が多い。その他、雨乞いに関する信仰もいくつか見られる。雨乞いは高麗神など雷神系の神社で行われる。

このように、川および水に係わる信仰は全流域で見られる。特に農業を主業とする地域では、水は必須のものであり、川や水に関する信仰が行われるのも当然のことであらう。一方都市部である水戸市においても、多くの水信仰が見られる。水戸市は、段丘上および沖積低地に発達した都市であり、特に段丘上の旧武家屋敷地帯は、水を確保することが重要であった。水戸市の水源であった笠原には笠原神社が祀られ神聖な区域とされていた。

また市内の段丘下の湧水が噴出するところには水神が祀られている。

表-1 信仰活動・事例

(内は町内指定)											
項目	黒根市	黒羽町	大田原市	湯洋上村	小川町	馬場町	馬山町	菅木町	喜連川町	前橋市	
水 神	水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根)	四月神社 (黒羽) 湯河神社 (黒羽) 湯河神社 (黒羽) 湯河神社 (黒羽) 湯河神社 (黒羽) 湯河神社 (黒羽) 湯河神社 (黒羽) 湯河神社 (黒羽) 湯河神社 (黒羽) 湯河神社 (黒羽)	水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原)		白入神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入)	八重神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重)	日蓮神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮)	高麗神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗)	湯河神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河)	
雨乞い		鶴ヶ江 (湯河)		笠原神社 (湯河) 笠原神社 (湯河) 笠原神社 (湯河) 笠原神社 (湯河) 笠原神社 (湯河) 笠原神社 (湯河) 笠原神社 (湯河) 笠原神社 (湯河) 笠原神社 (湯河) 笠原神社 (湯河)		二葉神社 (二葉) 水神社 (二葉) 水神社 (二葉) 水神社 (二葉) 水神社 (二葉) 水神社 (二葉) 水神社 (二葉) 水神社 (二葉) 水神社 (二葉) 水神社 (二葉)					
祭 礼	水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根) 水神社 (黒根)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入) 水神社 (白入)	水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重) 水神社 (八重)	水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮) 水神社 (日蓮)	水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗) 水神社 (高麗)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	
カワッペイリ (カビタリ) 12月1日											
項目	水戸市	那珂市	那珂市	那珂市	大田原市	湯河町	湯河町	湯河町	湯河町	湯河町	
水 神	水神社 (水戸) 水神社 (水戸) 水神社 (水戸) 水神社 (水戸) 水神社 (水戸) 水神社 (水戸) 水神社 (水戸) 水神社 (水戸) 水神社 (水戸) 水神社 (水戸)	水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂)	水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂)	水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂) 水神社 (那珂)	水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原) 水神社 (大田原)	水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河)	水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河)	水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河)	水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河)	水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河)	水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河) 水神社 (湯河)
雨乞い									石神神社 (湯河) (湯河)		
祭 礼	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)	湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河) 湯河神社 (湯河)

4.2生活活動

川に係わる生活活動として、水汲み、洗濯等があげられる。社会が組織化、社会化されるなかで、この活動はしだいに衰退しつつある。那珂川流域でも生活活動と呼べる事例を現況ではそれ程見出すことは出来なかった。それでもいくつかの事例を現地調査によって観察することができた。川に係わる生活活動は文献、特に地方誌などから抽出することは殆んど困難であり、現地で観察する以外に事例を抽出することができない場合が多い。

現地で観察できた事例は、段丘下の湧水の生活用水としての利用、茨城県内の砂州上での洗濯、河口部での大洗いなどである。那珂川は水質も流況も良い河川であるため、他の関東圏内の河川に比較すると生活活動は今だに行われている。

4.3 生業活動

那珂川は江戸時代前半、東北からの米を江戸へ輸送する交通路として利用され水運が盛んであった。那珂川沿いの多くの市町村に河岸が置かれた。特に栃木県の黒羽町は、陸路から水路への積替地点として江戸時代栄え、現在でも昔の河岸を偲ばせる倉などが多く見られる。昔の河岸跡には、教育委員会が設置した河岸跡の石柱がある。また茨城県の長倉河岸には、昔河岸であったことを偲ばせる倉が見られる。

しかしそれ以外の河岸跡では、河岸を示す構造物や町並みなどはほとんど見られない。熊本県の菊池川では、昔河岸であった玉石市の護岸を昔の河岸の荷上げ場そのままに復元、保全し、環境整備の一手段としている。歴史的施設や川に連なった町並は、このように河川環境を向上させる手段の一つとなり得るものであり、跡型もなく消え去るのは勿体ないような気がする。なお現在行われている舟運としては、観光用の那珂川ライン下りと2ヶ所の渡しがある。

比較的盛んな生業活動として、漁業および観光業をあげることができる。栃木県内のアユ観光やナ、茨城県内の鮭漁は盛んであり、重要な観光資源となっている。その他の生業活動としては酒造業、和紙製作などがあげられる。明治期には烏山に千軒の紙すき農家があり、紙問屋も10軒近く店を張っていたが、現在では1社のみとなっている。

那珂川における生業活動は、日本の経済機構の変遷に伴ってその中心は変化してきている。現在ではしだいに生産に直接関係のない観光業などの比重が増大している。

4.4 社会活動

治水活動・利水活動について、主として歴史的な石碑、水争い、水車の事例を収集した。親水に重点を置いたため、治水・利水活動の対象を狭めたが、川に係わり方を理解する上でそれらの重要性は十分認識している。那珂川流域は他河川と比較して流況が良い河川であるためか、利水についての水争いの事例が少ないのが特徴的である。現況の社会活動を見ると、利用されている水車は調査した範囲でただ一箇所黒磯市に現存していた。

その他の地域活動、社会活動については洪水に対する地元の対処・水防活動は調査しなかった。また河川清掃等の地域活動について今回の調査では事例を収集することは出来なかった。市町村に対するヒアリング調査を入念に行うなど今後データを補足すべき分野である。

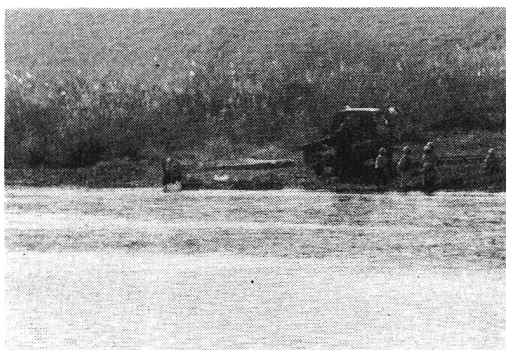
4.5 創作活動

那珂川を題材とした創作活動として、船歌(馬頭町役所、桂村舟唄)、伝説(勝田市ロクショウが糺伝説など)、小説(海門橋など)、詩歌(水戸階楽園仙湖暮雪、青柳夜雨など)がある。特に水戸市周辺では、徳川光圀に関連する短歌の碑が見られる。しかし那珂川に関する小説などもあまり多くなく、盛んに創作活動の対象となった河川とは言えないようである。



←写真1-黒羽町下河岸跡を示す石碑(生業活動)

写真2-茨城県御前山村 → 出荷する野菜を洗う農婦(生業活動)と川に先生と遊びに来た子供達(教育活動)



4.6 教育活動

那珂川および周辺の水系を題材や場所として種々の教育活動が行われている。黒磯市鍋掛小学校では、学校のそばを流れる上の沢に生息するトゲウオ科のイトヨの保護観察を行っている。黒磯市は、保護観察のための施設を上沢に設けている。水戸市では、小学校3年生から準教科書として「水戸市」を用いて教育を行っている。その中で那珂川について、その源流、河口部の位置、多くの市町村を流下していること、歴史、地理などの項目について言及している。

水戸市の茨城大学附属小学校では、59年度よりゆりりの時間に土曜日総合学習として、学校の下を流れる那珂川をテーマとして授業を行っている。「那珂川をさぐる」いう視点で、1.川の身体検査、2.川の健康診断を目的としている。夏期には奥那須の源流部まで行き、体験学習を実施している。

このように河川に係わる教育活動の事例は多い。自然的なものと社会的なものの総体である河川は、教育活動の対象としてはうってつけであろう。教育にとって河川は理科の題材としてあるいは社会の題材として重要であると言える。

4.7 レクリエーション活動

レクリエーション活動を大きく分けると、観光業の手を借りて行う活動と借りずに行う活動に分けることができる。

いわゆる観光業の手を借りるレクリエーション活動は観光業に代表されるように栃木県に多く、観光業の手を借りないレクリエーション活動は、砂州の発達した茨城県内が主である。もちろん釣りは、魚類は豊富な河川であるので全川にわたって行われている。

栃木県烏山のヤナは特に大きく、年間約2万人の人出がある。一方茨城県の特に砂州のある区間では、観光業の手を借りない多くのレクリエーション活動が展開されている。1984年8月14日に行った現地調査では、水泳、水遊び、魚釣り、えび釣り、虫釣り、ボート、釣り、舟釣り、投網、食事、テント、石遊び、水きり、花火などというように実に多くの親水活動が行われていた。この区間では砂州が特に人々を引きつける魅力の中心となっていた。

那珂川は、清冽な水と豊富な緑が織り成す美しい風景を持つ魅力のある河川である。レクリエーション活動にとって恵まれた条件を揃えており今後ますます盛んになることが予想される。

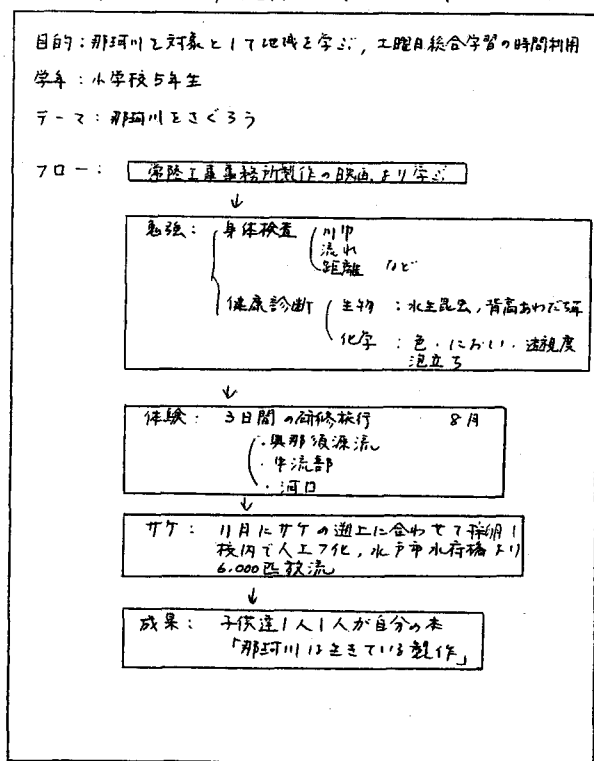


図-3 那珂川を対象としたゆりりの教育（茨城大学附属小学校）

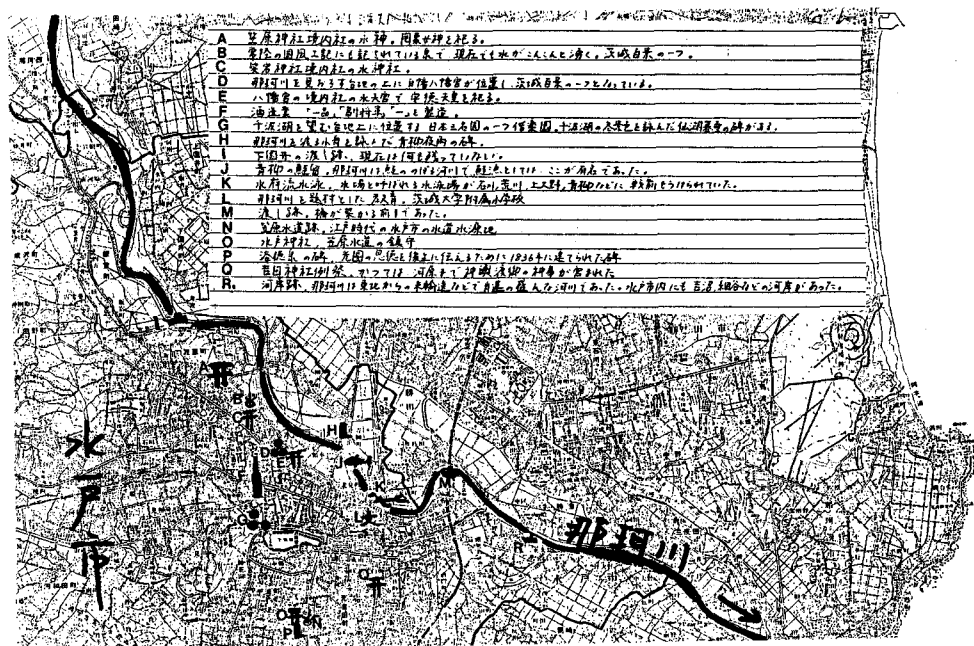


図-4 水戸市親水マップ

5. 考察

各種の親水活動について種別ごとにみてきたが、多種かつ豊富な親水活動が一流域の中で行われていることが明らかになった。農村に行けば、用水の近くや水源池に必ずといっていい程水神の祠があり、また小高い山の上には雷神を中心とする雨乞いの神社がまつられている。江戸時代の城下町を土台として発展してきた水戸のような都市では、河川を防衛のための堀の水源や舟運の媒体としており、川との係わり合いは農村同様深かった。筆者らが全国20の城下町について行った水空間の変遷調査では、江戸時代後半の市街域では20城下町平均で、市街地面積に占める水空間の割合は約1割であり、水空間までの到達距離の平均値は158mであった。

前章までで考察した7つの活動の中で、現在教育活動、レクリエーション活動(特に盛んであり、重要な活動であることがわかった。この2つの活動以外でも信仰活動や舟運は一時非常に盛んであった活動であり、一部で存続したりあるいは名残りが残っている所もある。現在盛んになってきた教育活動、レクリエーション活動の中に、昔盛んであった歴史的な活動を今日的に再評価し、新たに取込んでいくことが重要な課題であろう。歴史的雰囲気や施設と河川環境向上に活用する手法は、近年菊池川や佐原市小野川、栃木市巴渡川などで実施され効果的に判断している。また、松江市の大橋川の祭りホーランエンヤの復活にみられるように、祭りなどは、地域行事として復活する傾向にある。河川環境を向上させるのにこのような、川や水と人々の係わり方を上手に利用することは重要な課題であろう。

なお、水戸市の親水マップを作成した。人々に河川と地域の深い係わりを理解させるのに有効であろう。

検討した活動のうち、調査不足を感じさせる分野がいくつか見られた。今後調査方法を工夫しながら流域活動の実態あるいは歴史を調査するための手法を確立し、データを追加したいと考えている。

最後に今回の調査に多大の協力をいただいた関係地方自治体、茨城大学附属小学校、建設省関東地方建設局常陸工事事務所の皆様により感謝します。

参考文献 1) 松浦・島谷「都市域に望まれる河川像に関する研究(その2) -かわと人々の活動のかかわり方-」土木研究所資料 2223号

2) 松浦・島谷・小栗「自然河川における親水活動の実態分析」土木技術資料 1985・7